

# 快護通信

A good care makes a good smile. A good smile induces happiness.

KOYO デスパース オツツ・カン

株式会社光洋 - ディスパース  
〒236-0004 横浜市金沢区福浦 1-5-1 TEL045-781-1870

紙おむつのあて方ムービー「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」



光洋

検索

http://www.koyo.jp

2017年  
4月発行  
発行人光洋  
37号

## ～快護のフロに聞きました～

### クラケア・サポート 館様 ～くらし×らしく～ Padイン専用下着「LaSiQu（ラシク）」のご紹介

わたしたち「クラケア・サポート」がPadイン専用下着を開発・販売したきっかけは、例えば20年後、自分がケアを受ける立場になり、尿もれが発生したとしても、健康なときと同じものを履き続けたい！と思ったからです。

わたしたちは、いまの日常の暮らしがいつまでも続くと思っています。また、この日常の生活が続くことが当たり前で、幸せだと無意識に感じながら生きています。さて、みなさんがそれまで履いていた下着が、尿もれでいつもどおり使えなくなったら、どうしますか？わたしなら、いまやたくさんある高吸収量の大きなパッドを下着の中に入れていきたいと思います。けれども、市場にある通常の下着（トランクスや女性用の小さ目の下着）では、中に大型パッドを固定し歩くことは難しいんですね。では、大型パッドでも身体にしっかりフィットできる、自分が履きたいと思う下着を作ったらいい、そんな思いで、わたしラシクいられるPadイン専用下着「LaSiQu（ラシク）」を作りました。



「LaSiQu（ラシク）」は、左右両側がスナップで着脱できる両開きの機能を有します。日中と夜間で1日2種類のアウター（紙パンツ・紙おむつ）を使用している方や、二人がかりでのトイレ介助が必要な方に、トイレに座ったままで足をあげることなく、また全てのズボン下やボトムの着脱なく簡単に下着の交換ができ、排泄の自立とQOLのUPを促せます。（図1参照）それが、

トイレでも  
簡単  
ラシク!



図1

ボタンで  
簡単固定!



●必ず商品の中に手を添えてボタンを固定してください。

覚醒している日中だけであっても…その人の人生の意味がパンツ一つでガラッと変わります。

わたしたちの立場で考えるとすれば、自分が選ぶ自分好みの下着を履き続けることで、わたしたちのプライドや尊厳が維持でき、こうやって毎日仕事に励み続けられるのではないのでしょうか？「（自分が）入りたい施設」の考え同様、「自分が受けたいケア」を冷静に考えることで、排泄ケアにおいても正しい方向性を選択できるような気がします。

おむつをゼロにするか100%おむつに頼るのかという選択とは別に、下着にパッドをインできる『50%の選択肢』という選択をもうひとつ増やしませんか？きっと排泄ケアの新しい形が見えてきますよ！

### 株式会社クラケア・サポート 代表 館 亜美（たちつぐみ）

介護福祉士・介護支援専門員 失禁予防サポーター  
略歴）1996年～療養型医療施設にて介護福祉士として従事後、排泄用具メーカーを経て、2007年に株式会社クラケア・サポートを設立。

2013年には、お洒落な下着で暮らし続けられる「Pad in専用インナーLaSiQu（ラシク）」を開発し介護現場へ「今のはいせつケアにもう一つの選択肢」のご提案を行う。また市民活動「らしく+（プラス）」から、地域の元気な高齢者対象に、「失禁予防講座」を行う。各市町村や社会福祉協議会からの依頼が増加の一途のため、2015年、「失禁予防サポーター®」を創設。地域で行われる介護予防講座のひとつとして重要な『失禁予防』を広められる人材を増やそうと、邁進しています。

Padイン専用下着「LaSiQu（ラシク）」のお問い合わせはこちら↓↓

TEL：022-353-6681（平日9:00～17:00）

メール：info@claracare.com



## 高齢者と水分



人の体は約60%が水分でできています。胎児では体重の約90%、赤ちゃんでは約75%、子供は約70%、成人では約60%、高齢者では50%と年齢によって分かれています。体内の水分が5%減ると「喉がカラカラ」と感じます。10%減ると「筋肉の痙攣、循環不全」が起こり、20%減ると「死」に至ります。

1日あたりの身体から排泄される水分量は合計で、2400～3300mlです。

《参考：1日当たりの体への水分の出入り》

尿として排泄される水分量→1500～2000ml

便として排泄される水分量→200～300ml

汗など不感蒸泄として排泄される水分量

→700～1000ml

水分の摂取量→900～1300ml

食事から摂取される水分量→700～1000ml

食事から摂取する必要のある水分量（計算式）

→体重×35ml－1000ml

エネルギー変換に必要とされる水分量

→200～300ml

高齢者は

①もともと体の水分量が少ない

②喉の渇きを感じにくい

③腎臓の機能が低下している

④感覚機能が低下している

という理由から、脱水症状になりやすいものです。

しっかりと水分補給をしてさしあげましょう。

水分をたくさん摂っている方と摂らない方では、

摂らない方のほうが5%程度物忘れが多いと言われています。人にとって水分はとても大切です。

### 楽しくおいしくティータイム

水分をあまり摂取できない原因の一つとして“おいしくない”という理由があげられます。水分補給を目的としてただお茶だけを繰り返し勧めても、高齢者にとっては苦痛かもしれません。

大事なのは“美味しく飲めること”です。なるべく楽しい雰囲気をつくり、個々の嗜好に合わせた飲み物を皆と一緒に飲んでいただくよう工夫してみると良いでしょう。おやつ時間にドリンクバーなどを作って選んでもらうようにすれば、その人の好きな飲み物が把握できるので効果的です。

いろいろな工夫を凝らして、皆で素敵な春のお茶会を開いてみてはいかがでしょうか？



## 百万ドルの夜景

兵庫県の観光都市・神戸。北を見上げると六甲山系に連なる山々、南を望むと世界的貿易港である神戸港やメリケンパーク・ハーバーランドなどのアミューズメント施設が広がっています。

今回はそんな美しい神戸の街並みを一望できる、「カネディアンヒル介護老人保健施設様」をご紹介します。

## 紙おむつの検討から排泄ケアの変化

同施設は、平成27年の介護保険改正に向けて、紙おむつの費用削減の検討をはじめました。当時、紙おむつは光洋-ディスパース製品と他2社の製品が混在していました。吸収量の大きな尿取りパッドを使用していたため尿もれはあまり発生していない状況でしたので、全面的な見直しをすすめることによってご利用者への負担・スキントラブルのリスク、(再検討による)スタッフの皆様への業務負担を増大させないよう、段階を追って検討することにしました。

パッドの吸収量を少なくしてももれが発生しないよう、まずはオンリーワンパンツ・テープ止め等、アウターのサイズ見直しをおこないました。

次に両面吸収パッドの使用を見直し、最後にパッドのサイズダウン、とすすめていきました。両面吸収パッドの見直しは、今まで使っていたものを中止することになる為スタッフの皆様の不安は大きかったと思われます。しかし、いざパッドの見直しが始まり、ワンランク小さい吸収量のパッドに切り替えてみても尿もれはほとんど増加せず、日頃よりスタッフの皆様が、正しいおむつのあて方をなさっている証明となりました。

心配されていたスキントラブルも発生せず、重ね使いと吸収量の過剰なパッドの使用の減少により、おむつ内の蒸れが解消され、違和感も軽減されました。

おむつにかかるコストに関しては、その前年と比較すると1ヶ月平均4万円下がる結果となりました。

そして皆様と一緒に検討をすすめ、平成28年10月よりおむつはすべて光洋-ディスパース製品をご採用いただいております。

# 医療法人社団 甲有会 カネディアンヒル 介護老人保健施設 様

## 研修の開催

平成26年より、光洋-ディスパースによる排泄研修を数多く開催しています。

研修内容は、紙おむつのあて方・おむつ交換立ち合いアドバイスなどの実技です。様々な雇用形態のスタッフがいらっしゃる中、誰もが参加しやすいよう、日中のおむつ交換立ち合いや、夕方のデイサービス・リハビリスペースを利用した研修など、開催時間等を工夫されています。

同じ内容の研修を繰返し開催することについての意義を、河合統括主任にお伺いしました。「排泄だけではないですが、僕たちが当たり前のことを、(ご利用者に)当たり前でできることが、介護として当たり前だと思うのです。実技を繰返すことも、聞くだけでは実感できない、やってみないと、体験してみないとわからないことがあります。」

河合統括主任とは、紙おむつ見直しの検討時から切り替えスケジュールやケアの方向性などを相談し合っています。お話をされる中で、業務上の都合や自己アピールなどはなさらず、人を想う強いご意志を感じます。多くを語らず背中で見せるその姿勢に、お会いする度に、自身の足元を見直すよい機会をいただいています。

## 優しさが伝わるケア

平成28年度、目標を「ぴったりフィットで横もれ0(ゼロ)」と掲げ、研修内容も基本のあて方からステップアップし、ぴったり装着するための立ち上がり動作・拘縮の方の身体の動かし方等、“もれない”ためだけのあて方ではなく、ご利用者に負担・不安を生じさせない、優しさをもった介助に取り組まれています。また、陰部洗浄時の拭き取りによる“摩擦”にも着目され、洗浄方法・手技の改善も検討されています。

おむつをあたり前ととらえず、ご本人の意向・使う人の身になって援助できるよう、光洋-ディスパースケアコンシェルジュもお手伝いして参りたいと思います。この度は、杉浦副施設長はじめ、河合統括主任・スタッフの皆様、お忙しいところ取材へのご協力をいただきありがとうございました。



## 写真

- ①神戸ハーバーランド・モザイクとメリケンパーク・神戸港：神戸観光壁紙写真集より
- ②カネディアンヒル施設屋上：神戸の街が一望できます
- ③河合統括主任：排泄ケア切り替えのご担当としてご協力いただいております
- ④排泄ケアの担当スタッフの皆様：皆様一生懸命取り組んでいらっしゃいます
- ⑤光洋-ディスパースコンシェルジュによる研修会風景：あて方のデモンストレーション